

大乘妙典日本廻国供養塔



大乘妙典日本廻国供養塔は、中世から江戸時代にかけて造立されました。

僧侶、修験（しゅげん）、行者などが大乘妙典（妙法華經）を書き写し、仏像と一緒に厨子に納めて背負い、国家安全、滅罪作善（めつざいさぜん）、追善回向（ついぜんえこう）などを願って全国（六十六国）を回り、一国一箇所（国分寺などの由緒ある霊場）に奉納することを無事に終わらせて、記念に建てられた石塔です。（参考資料：東大和の歴史）

この石塔には、「文政九丙戌年八月」、「当村湊行者治右工門」の文字が刻まれています。